

少しずつ春の陽気を感じるようになった。時折寒さが戻る日があるが、それでも寒さは和らぎつつある。今月夏時間に戻ったことや街の様子がこちらに来た当時を思い出す雰囲気になってきたことから留学生活が終わりに近づいていることを感じている。中旬の一週間にSpring Breakがあった。当初色々と考えていたが、どこにも出かけることなく過ごした。今までになくだらけた生活を過ごしてしまったせいか、元の生活に戻るのに苦労した。本報告では、私生活と履修授業の様子を踏まえて、こちらの学生を見て感じたこと、そして自分自身の考えを記す。

春学期の履修科目から

授業終了まで残り一カ月となった。履修授業の多くは折り返し地点となる中間テストを終え、再び座学の授業の日々となった。

ESL 114 Intro to Academic Writing

私はSpring Breakが明けた月曜日までに宿題の提出があった。しかしそれに気がついたのは提出前の金曜日の夜、親切に担当教員がメールをくれたおかげだ。今回の宿題は2枚の英文をまとめて3~5枚のレポートにすることである。注意として引用文・参考文の記載の仕方があった。これは休み前に、参考資料を自分のレポートにどのように記載するかについて習ったからだ。私は早速文章を読み始めたが、興味がわからない内容でかつ英文である。一つの資料を読み終えるのに2時間を費やしてしまった。もう一つは両面印刷されており、5時間近くかかってしまった。結局、私は締め切りまでに書き終えることができず、次の週まで持ち越してしまった。しかしこのことが、私の一週間を不快な自己嫌悪の日々とした。留学前にローズ・ハルマン工科大学から一年間いらしたScott Clark教授の「日本とアメリカの文化」について授業を受けた。その時海外の生活について多くのことを習った。その中で海外の生活では必ず「幸福」と「不幸」を感じる時期が波のように交互にやってくることを習った。今回の波は大きかった。なかなか立ち直ることができなかった。

先日の授業では、小チームでのディスカッションが行われた。内容は、新たに発見された星へ向かう男女合わせて9人のチームのうち、8人しか行くことができないとしたらどの専門家を候補から外すかというものだ。とりわけクラスメートの台湾の学生とフィンランドからの学生が激しく討論したが、私はそれがとても羨ましく、自分もこのように自分の意見を激しく英語で話せるようになりたいと、改めて自分の未熟さを感じた。

TAM 212 Introductory Dynamics

3 hours

この授業は200人近い生徒が一斉に聞くので、この授業の席取りは大変である上、毎回宿題の提出が要求されていた。私は目が悪いということもあるが、黒板の内容が見にくい、読みにくいということと、担当教員の声を聞きとるために、また私を印象付けるためにできるだけ前の席に座っている。そんなある日、後ろから教員に質問の声がするので振り返った時に気がついた。中間テスト以前よりも生徒が少ない。しかし授業が始まる前の廊下は以前と変わらない。これはどういうことなのかと思った。そんな疑問を持ったまま次の授業の際にわかったのだが、皆授業に出ない。そして、それとともに多くなったことが、講義中に前を横切って提出し退出していくことである。その際に頭を下げてかがむようなことはせず、堂々と歩いてくる上に、雑音を立てて去っていく。おかげで黒板はさえぎられるうえ、プロジェクターにはその人の影がうつり、担当教員も渋い顔をするのが注意はしない。私は以前からこの行為に対して他の人への思いやりが無いのではないかと思っていた。他にも担当教員への指摘も厳しい。あたかも黒板が見にくいのは先生のせいだのような雰囲気や口調で発言をする。日本ではありえないのではと思う。授業内容は回を重ねるごとに難しくなった。しかしこれまでになく授業を受けている充実感がある。

ME 403 Internal Combustion Engines 3 hours

この授業は講座と実験があるはずだったが、実験は2度しか行われなかったこととなった。理由は実験に使用する機関の不具合から実験ができない。出力軸と動力計をつないでいるカップリングが割れてしまったとのことだった。私はこのようなことで授業内容が変更されることがある事に驚いている。当初実験なくなる予定だったが、バイオ系の研究室にあるディーゼル機関を間借りすることとなったため、一回だけの実験が行われた。実験内容はほとんどがKITの工学専門実験で行った内容で、私はTAをやっていたこともあり、興味深いと同時に内容の理解が容易で大変良かった。実験設備はKITと違い、研究室の物を利用するため、充実していた。機関と制御・計測室が区切られていることも良いと思う。この授業は先月の報告書でも取り上げたとおり、興味深い授業であり、内容が内容だけに難しいが、とても細かく講義してくれるのでわかりやすい。中間試験も毎回の宿題の内容に類似していたため、想像以上の点数が獲得できてうれしかった。

ENG 491 Interdisciplinary Design Project 3 hours

このプロジェクト活動は今月の終わりに今年の大会に使用する車両が完成し、今はテストと調整の日々である。私の仕事はほとんどが終わり、今は皆の活動を見ているだけとなってしまった。

今月の上旬の木、金曜日に Engineering Open House があった。これは工学系学科の一般公開である。KITをはじめ、日本の大学の多くがオープンキャンパスと題して、一般公開と共に新入生に学校を知ってもらう機会を催しているが、それと同じである。このプロジェクトでも、一般公開と共にスポンサーの方々を招いた説明会が催された。私は同席して思ったことが、メンバーの対応は人それぞれにしても、積極性という意味においてはやはり日本とどこか違う雰囲気がある。例えば質問に答えるだけでなく、自分から注目してほしいところをどんどん説明してだけでなく、自分自身のことを相手に説明していることが違うと思う。自己アピールを欠かさない。説明会が終わり、プロジェクトで使用している作業場で、スポンサーのフォードの方を招いた活動説明も行われた。その際も同じように感じた。しかし、時に相手の意見を聞かないことや、後から割って入ってくる行為は少し度が過ぎるというか、自己中心ではないかと思うことがある。だが、それぐらいでないとも戦っていけないのかもしれないとも思った。

自分が受けている授業や私の周りの人しか見ていないという意見もあるかもしれないが、私の感想として、こちらで生活する人の多くは、何か助けがほしいとアピールすると、とても親切に対応してくれることは、日本よりもすごいことだ。しかし、時に自己主張が目立ってしまうことがある。「われ先に他の人より半歩でも先に」という感じを受けることがある。しかしこれが競争社会の根源なのかもしれない。私もプロジェクトにはいった当初は自分をアピールすることで必死だった。しかし落ち着いてきた今では、派遣留学生という一歩引いた立場から多くを見ることができるようになるからわかることで、私も同じなのではないかと思う。

今回は、春学期の履修授業で感じた事をメインに報告した。以前にも同じようなことを書いたが、この留学生活では、色々なことを主観的に、また客観的に見ることが出来る機会だと思う。以前は相手の国やそこからの文化ばかり気にしていたが、今ではその本人を考えるようになった。日本の生活でも相手のことを考えるが、それは日本の中だけのことで、このように海外にいとそれ以外のことも影響してくると考えてしまう。しかしやはり最後にはその人自身はどうか、ということが大事になってくるのではないかと思うようになった。そのことを踏まえて自分を見ることが出来る機会となった。この留学生活もまとめの時期となってきた。しかしさらに多くの事を学び、吸収して日本に帰国したいと思っている。